２０２３年1月２３日

苫小牧市長
岩倉 博文　様

連合北海道胆振地域協議会
会長　日西和広

北海道平和運動フォーラム日胆地域協議会
代表　田畑明洋

立憲民主党北海道総支部連合会第９区総支部
代表　山岡達丸

米海軍・ミサイル駆逐艦「ラファエル・ペラルタ」
苫小牧港への寄港受入れ判断を撤回する申し入れ

貴職におかれましては、日夜、市民生活の安心・安全と命を守るため、ご奮闘されておりますことに敬意を表します。

さて、米海軍のミサイル駆逐艦「ラファエル・ペラルタ」が２０２３年1月３０日に苫小牧港へ寄港を希望していたことについて、苫小牧市は核兵器の搭載能力がないとの見解が示された等として受入れの判断をしました。米艦船の寄港は、民間商業港を準軍港として固定化し、「日米新ガイドライン」による自治体協力をなし崩しに進めるものであり、自治体に軍事的役割を求めるものです。

今回の寄港目的は軍艦にとっては軍事行動を意味する「通常入港」であり、苫小牧港が民間船舶の運航施設として設置された目的を果たすためにも、人命や航海に支障を来すような緊急時以外の米艦船の入港は認めるべきではありません。

米艦船の入港が度重なることにより、商業港としてのイメージ悪化は避けられないばかりか、地域紛争が起こった場合に米国が民間の港を利用できるようにするための準備と、市民を米艦船に慣れさせることを目的としているとしか考えられません。北東アジア地域の軍事的緊張をいたずらに高め、平和を願う市民の思いと逆行するものであり、北海道において唯一「非核平和都市条例」を制定している苫小牧市民の意思に反することとなります。

また、商業港の経済活動に大きな支障を与え、港湾労働者をはじめとする関係者に不利益が生じる可能性もあります。一部には経済効果を期待する声もあるようですが、多くの市民は「殺戮」の兵器で利益を得る事を望んでいません。

以上のことから、私たちは米海軍ミサイル駆逐艦「ラファエル・ペラルタ」の寄港に反対するものであり、寄港受入れの判断を即時撤回することを求めます。

貴職におかれましては、苫小牧市民をはじめとする国民の安全を確保し暮らしを守り、苫小牧市民・道民の平和と軍縮を求める立場から、米艦船の苫小牧港への寄港受入れ判断を撤回するよう強く要請します。

以　上